

2022年8月5日

GCPつくばセミナー（オンライン）：
GSTに関する勉強会・意見交換会

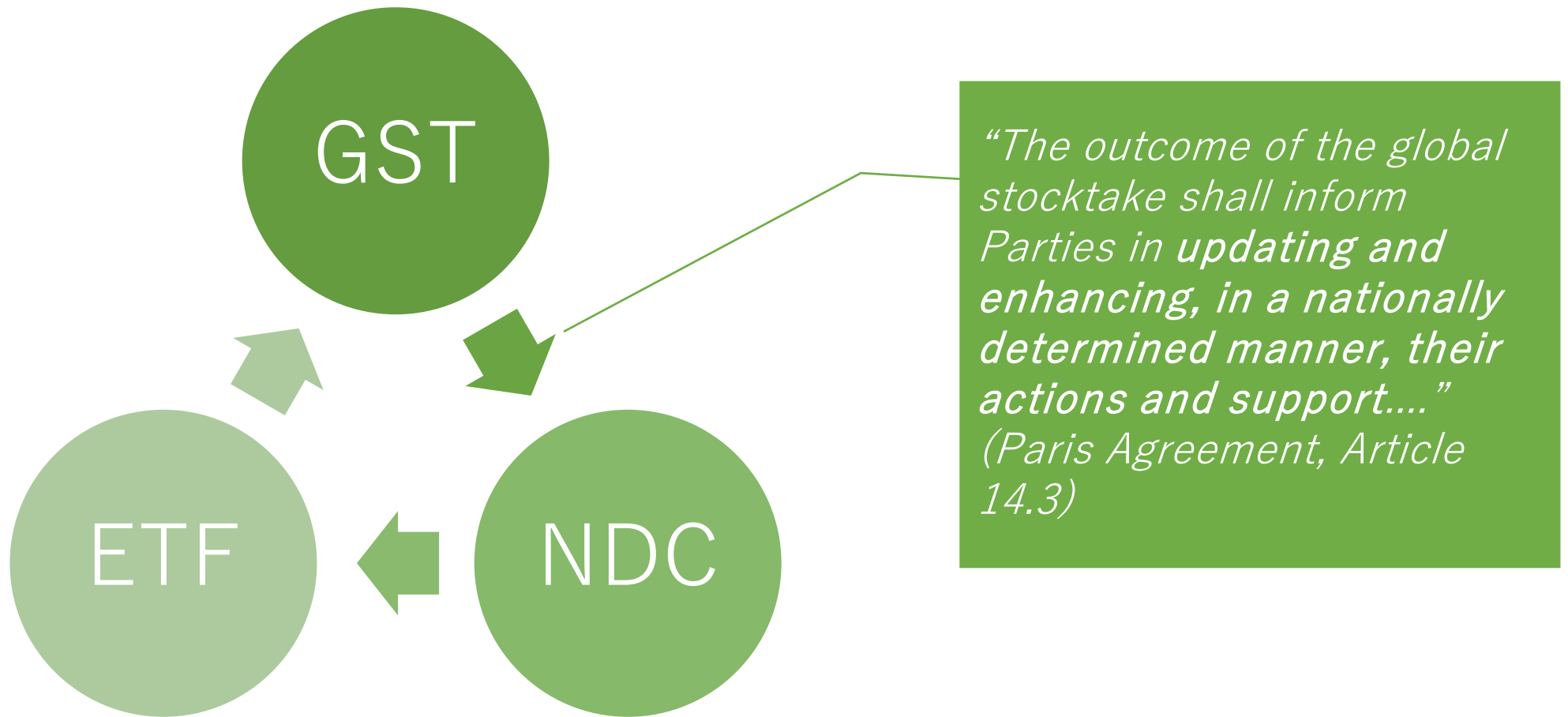
パリ協定・第1回グローバル・ストック テイク（GST）の展望

GSTは今後各国の目標の更新・強化に影響を及ぼせるか？

梅宮知佐、津久井あきび



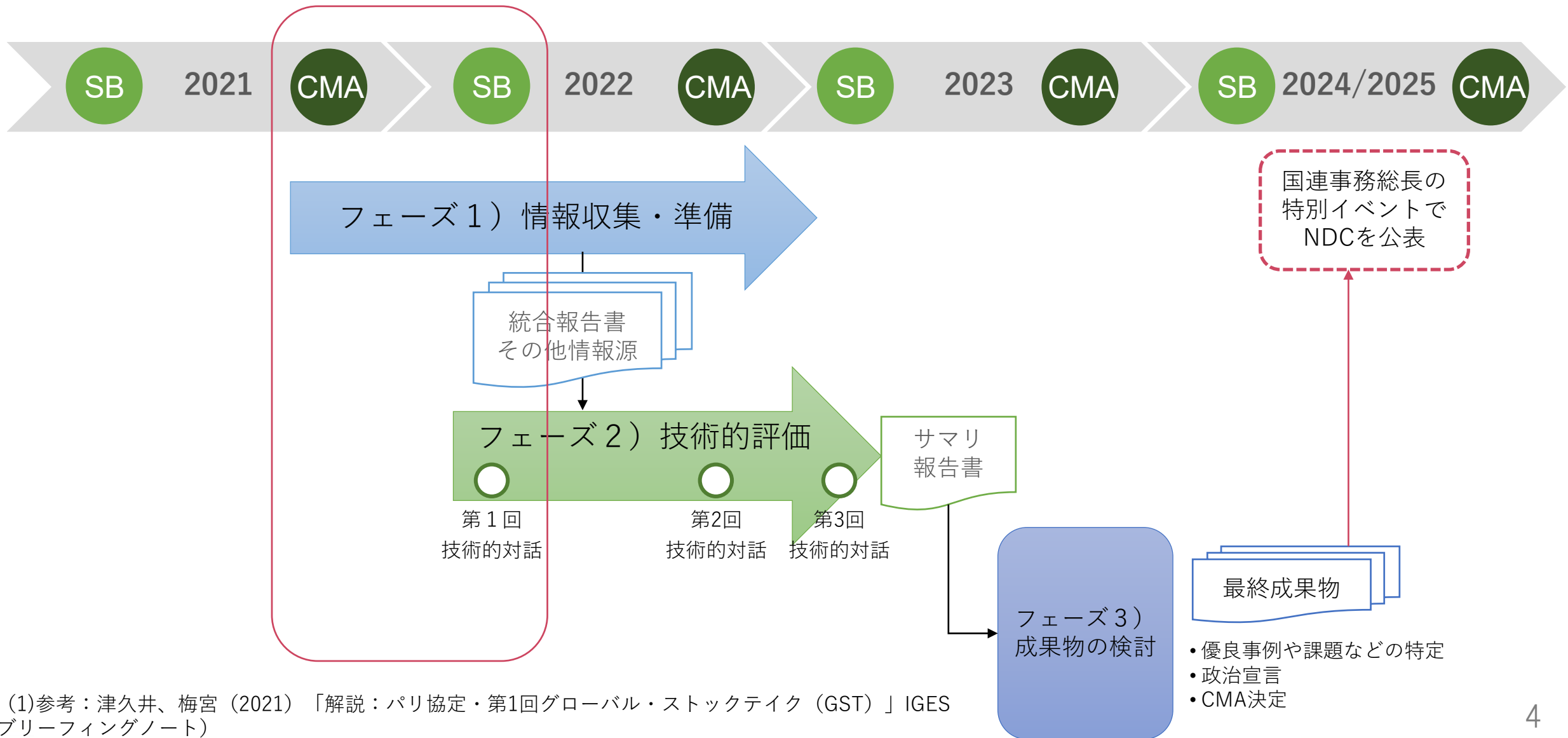
GSTの目的は、世界全体の進捗を評価すること。
その成果は、各国NDCの更新・強化に必要な情報を提供する。



グローバル・ストックテイクって、
2023年に行われるんですよね？

(GTSに関してよく聞かれる発言・質問)

GSTは3つフェーズから成り、実施には2年半かかる。



(1)参考：津久井、梅宮 (2021) 「解説：パリ協定・第1回グローバル・ストックテイク (GST)」 IGES ブリーフィングノート)

私たちの想像していたGSTイメージ
(※個人差はあります)

入手可能な
あらゆる情報の
収集

系統的な
整理・評価

NDC強化につ
ながら具体的
な結論・提言¹⁾

強い
シグナル

実施原則：最良の科学と衡平性

(1)参考：Dagnet et al. (2020) A Vision for a Robust Global Stocktake.)

フェーズ1) 情報収集・準備

フェーズ1) 情報収集・準備では、①情報の収集・まとめ (compile) ・統合 (synthesise) 、②技術的評価を実施するための準備、が実施されてきた。

これまでの実施状況：

- GSTの評価分野である「緩和」「適応」「実施手段と支援」及び分野横断的課題である「ロスダメ」「対応措置」について、情報収集や評価のためのガイディング・クエスチョン (GQ) ¹⁾が公開された。
 - ✓ GQの例：What are the trends of the concentration of GHGs in the atmosphere and global average temperature and what global emission pathways are consistent with the goals set out in Articles 2 para 1(a) and Article 4.1?
- IPCC報告書、各国政府が提出した報告書 (e.g. NDC, BR, BUR, NC) の情報をまとめた統合報告書²⁾、非政府アクターを含むステークホルダーからのサブミッション³⁾などの情報が収集された。

フェーズ1) への関与にあたりIGESが留意した点：

- GQが系統的な整理の基盤となると理解し、GQに直接回答する形でサブミッションを作成した。
- サブミッションがGQごとに整理され、そのエッセンスがキーメッセージとなると考えた。
 - ✓ 例えば、「サブミッションによると、排出量はX～Yのレンジで増加傾向にある。」

(参考:

1)UNFCCC (2021) 「両SB議長による修正版ノンペーパー」

2)津久井、他 (2022) 「第1回グローバル・ストックテイク (GST) 技術的評価に向けた『温室効果ガス (GHG) 排出・吸収量の状況と緩和努力に関する統合報告書』IGESファクトシート

3)UNFCCC Submission Portal)

フェーズ2) 第1回技術的対話の実施@SB56

- 各国の代表者／IPCCや国際機関からの専門家／非政府アクターが出席し、世界全体の進捗状況を「対話」を通じて評価。
- 対話は技術的対話の共同ファシリテーターによってデザインされた。
 - ✓ プレナリー、ラウンドテーブル、ワールドカフェの3つのフォーマットで対話を実施

ドイツ時間	日本時間	6月9日 (木)	6月10日 (金)	6月11日 (土)	6月13日 (月)	6月14日 (火)
10:00-11:00	17:00-18:00		RT1 緩和		RT3 MOI	閉会 プレナリー
11:00-12:00	18:00-19:00		RT2 適応			
12:00-13:00	19:00-20:00		RT3 MOI		TR1~3は同時刻 に同時開催	
13:00-14:00	20:00-21:00					
14:00-15:00	21:00-22:00				RT3 MOI	
15:00-16:00	22:00-23:00					
16:00-17:00	23:00-24:00	開会 プレナリー	ワールド カフェ	RT3 MOI	RT2 適応	RT1 緩和
17:00-18:00	24:00-25:00					
18:00-19:00	25:00-26:00			TR1~3は同時刻 に同時開催		

フェーズ2) 第1回技術的対話の実施@SB56

ラウンドテーブル

- 「緩和 (+対応措置)」、「適応 (+ロスダメ)」、「実施手段と支援」の3つのテーマ分野別にラウンドテーブルが実施された。
- IPCC専門家、国際機関からの専門家が導入となるプレゼン発表を行った。
- 各国の代表者/ IPCCや国際機関からの専門家/ 非政府アクターの間で対話を実施された。



ワールドカフェ

- 事前に用意された12のトピックについて、各国の代表者/ IPCCや国際機関からの専門家/ 非政府アクターの間で、少人数かつ非公式な環境で議論が実施された。
 - ✓ トピックの例：全球排出量等

フェーズ2) 第1回技術的対話：想像していた「対話」とのギャップ

- フェーズ1) 「情報収集・準備」とのつながりが見えにくく、収集された情報がどのように技術的対話に活用されたかが不透明であった。
 - ✓ ワールドカフェのトピック選定のためのキーワード抽出や専門家の招へいに活用された。
 - ✓ 対話のベースになったとはいいいにくい。
- 情報収集や対話のために作成されたガイディング・クエスチョンは、インプットでも対話でもあまり参照されなかった。
- 政治的議論と技術的対話の切り離しに課題が見られた。特に緩和のラウンドテーブルの対話は各国がステートメントを述べるにとどまり、その内容は非常に政治的であった。

Box 1

Emission and implementation gaps; just transitions to net zero emissions across systems (e.g. energy, land, urban, industry, transport, agriculture, and other systems); opportunities, enabling conditions and good practices for near-term mitigation action; ways to remove barriers to effective implementation and ambition; conserving and enhancing removals by sinks; costs of mitigation pathways, and benefits from limiting warming; fairness and ambition in NDCs; phasing out/down of coal, oil and gas; response measures and methodologies to assess social and economic implications of emissions reduction pathways; carbon dioxide removal and negative emissions technologies; historical emissions trends; global peaking and pathways in different national circumstances; market and non-market mechanisms; demand-side measures and behavioral change; decoupling emissions from economic growth; sustainable, climate resilient, and low emissions development pathways; global economic context and enabling conditions; removal of fossil fuel subsidies; stranded assets; mitigation of methane and nitrous oxide; and international cooperation on bunker fuels at ICAO and IMO.

緩和に関連するキーワード¹⁾

- これまで実施されてきた一方通行のコミュニケーション／質疑応答からの脱却、新しい対話スタイルへの挑戦が見られた。
- 特にワールドカフェでは建設的な議論が行われた。政治的ハードルが低く、少人数かつ議論すべきトピックが明確であり、ファシリテーター・参加者共に準備ができていたと考えられる。
- 政府・非政府の区別なく非政府アクターにも平等に発言権が与えられた。

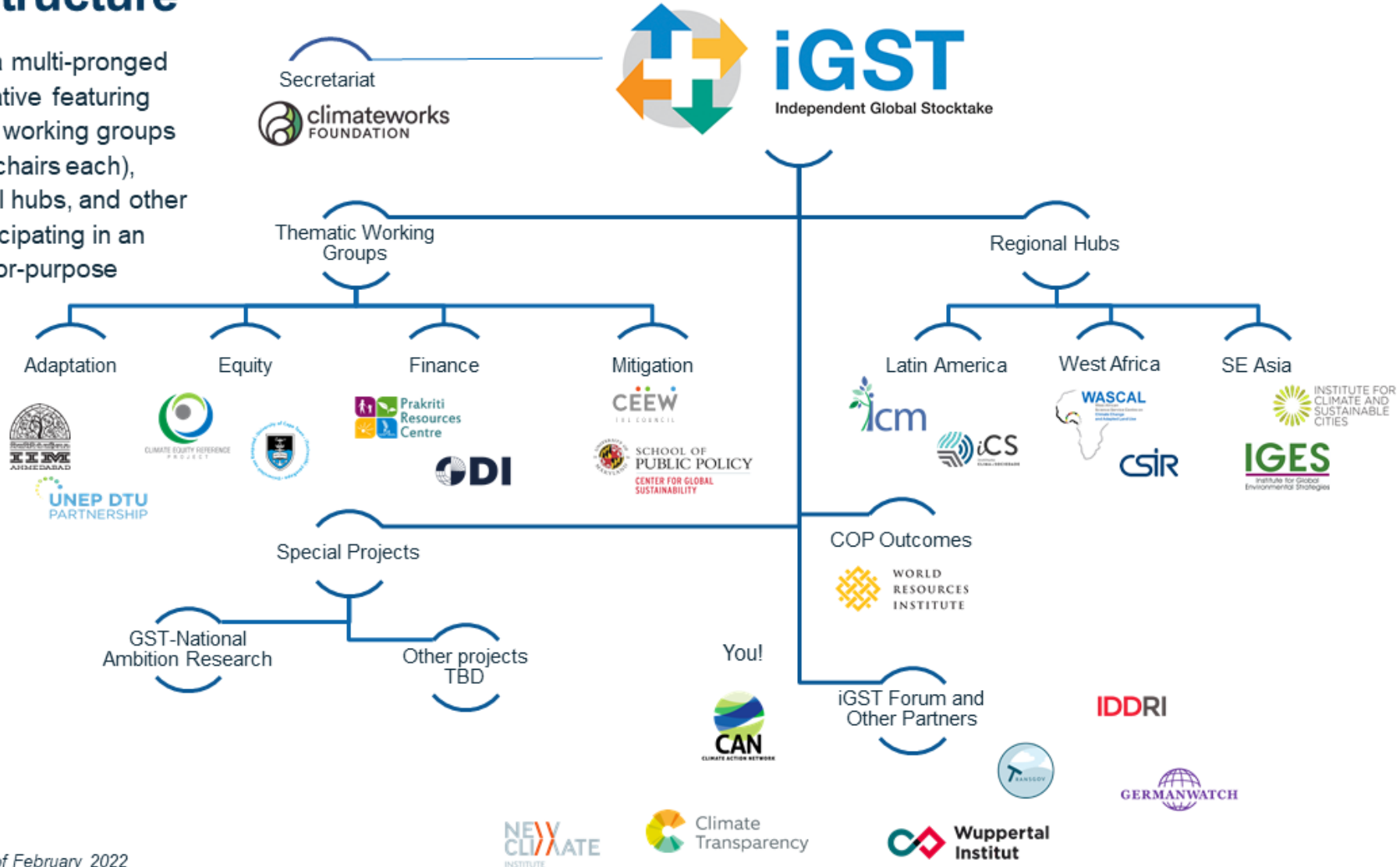
フェーズ2) 第1回技術的対話：総評

- 対話は非常にレベルの高いコミュニケーション手法である。
 - 対話に参加するための特別な資格は必要ない（例えば、インベントリ報告書のレビューには、レビューワーになるためのトレーニングと試験がある）。
 - 出席者がステートメントを繰り返すことは建設的な議論になりにくい。
 - 対話を通じて出席者全員で世界全体の進捗を評価することの難しさが浮き彫りになった。
-
- ワールドカフェにて建設的な議論がなされたことを踏まえ、対話のフォーマットを再検討することで技術的対話を改善できる可能性は大きい。
 - 第1回技術的対話を含む公式なGSTプロセスをきっかけとして、非政府アクターの取り組みが一部ではあるが確実に活発化しつつある。

Independent Global Stocktake (iGST)：非政府アクターによる研究・実践を通じて公式GSTを後押しする。

iGST Structure

The iGST is a multi-pronged umbrella initiative featuring four thematic working groups (with two co-chairs each), three regional hubs, and other partners participating in an evolving, fit-for-purpose structure.



iGST Structure as of February 2022

(iGST SE Asia Inception Sessionでのclimateworksによるプレゼン資料 (2022年6月) より抜粋)

東南アジアiGSTハブの今後の可能性

GSTプラットフォーム

- 公式プロセス情報共有・発信
- インプット促進（特定のアクターにフォーカス?）

地域版ストックテイク

- 専門家を招いての対話
- 情報収集と分析（特定分野・トピックにフォーカス?）

行動の強化促進

- 地域レベルの指標の開発（例：適応）
- 優良事例の共有

まとめ

- GSTの実施には理想と限界がある。
- 2023年の「成果物の検討」に向け、どれだけ科学的・技術的議論ができるかが、残り2回の技術的対話のポイント
- 公式プロセスの進展に期待するだけでなく、非政府アクターによる独立した視点・立場から、実施のギャップを埋めるための積極的な技術的・科学的関与が必要である。IGESでは、iGSTハブ構築を中心に東南アジア地域の非政府アクターとの協働を開始した。

NIESの皆さんに聞いてみたいこと：

- 最良の科学が、NDCの更新・強化を促すとはどういうことか？
 - 分かりやすさ、具体性など？NIESが政策対話の経験があれば教えて欲しい。
 - NDCの更新・強化にGSTの成果物が考慮される余地は実際あるのか？ NIESがNDC作成に関与した経験から教えて欲しい。
- GSTの文脈において、最良の科学とは何を指す？ IPCCだけではなぜダメ？ NIESがサブミッションを出した狙い、今後への期待は？

参考文献

梅宮、津久井（2022）「パリ協定・第1回グローバル・ストックテイク（GST）の展望：第1回技術的対話を終えて」IGESブリーフィングノート。

<https://www.iges.or.jp/jp/pub/gst-td1/ja>

津久井、梅宮、高橋（2022）「第1回グローバル・ストックテイク（GST）技術的評価に向けた『温室効果ガス（GHG）排出・吸収量の状況と緩和努力に関する統合報告書』IGESファクトシート。 <https://www.iges.or.jp/jp/pub/gst-synthesis-ghg-trend-and-mitigation-efforts/ja>

梅宮、津久井、田村（2022）「第1回グローバル・ストックテイク（GST）技術的評価に向けた『各国目標（NDC）の効果と進捗に関する統合報告書』IGESファクトシート。 <https://www.iges.or.jp/jp/pub/gst-synthesis-ndc/ja>

津久井、梅宮（2021）「解説：パリ協定・第1回グローバル・ストックテイク（GST）」IGESブリーフィングノート。

https://www.iges.or.jp/jp/publication_documents/pub/briefing/jp/11472/%E8%A7%A3%E8%AA%AC+%E3%83%91%E3%83%AA%E5%8D%94%E5%AE%9A%E7%AC%AC1%E5%9B%9E%E3%82%B0%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%90%E3%83%AB%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%83%E3%82%AF%E3%83%86%E3%82%A4%E3%82%AF.pdf

Dagnet et al. (2020) A Vision for a Robust Global Stocktake. https://www.climateworks.org/wp-content/uploads/2020/09/iGST_A-Vision-for-a-Robust-Global-Stocktake_FINAL-1.pdf

Independent Global Stocktake Website. <https://www.climateworks.org/independent-global-stocktake/>

The Hindu Online. (2022) Backsliding on climate action. （2022年7月26日、有料記事）

United Nations. (2015) Paris Agreement. https://unfccc.int/sites/default/files/english_paris_agreement.pdf

UNFCCC. (2018) Decision 19/CMA.1. Matters relating to Article 14 of the Paris Agreement and paragraphs 99–101 of decision 1/CP.21.

UNFCCC Global Stocktake Website. <https://unfccc.int/topics/global-stocktake/global-stocktake>

UNFCCC. (2022) Information note on the first meeting of the technical dialogue of the first global stocktake under the Paris Agreement.

https://unfccc.int/sites/default/files/resource/GST_Technical_Dialogue_Information_Note.pdf

UNFCCC Submission Portal. <https://www4.unfccc.int/sites/submissionsstaging/Pages/Home.aspx>

ご清聴ありがとうございました。

umemiya@iges.or.jp
tsukui@iges.pr.jp

IGES Institute for Global Environmental Strategies
公益財団法人 地球環境戦略研究機関